



# 和牛の頂点を極める

## 鹿兒島県勢が全9区分中6区分で農林水産大臣賞 うち3区分が鹿屋市

### ついに開催 全共鹿兒島大会

10月6日、10日に霧島市及び南九州市で開催された5年に1度の和牛のオリンピック「第12回全国和牛能力共進会鹿兒島大会」。今大会は過去最多となる全国41道府県から438頭が集まり、牛の姿形を争う「種牛の部(霧島市)」と、肉の質を評価する「肉牛の部(南九州市)」に分かれて和牛日本一を競いました。鹿兒島県からは24頭が出品し、その3分の1を超える9頭が鹿屋市から出場。

開会式では、第3区に出品した株式会社森ファーム(輝北町上百



※画像は全国和牛登録協会配信動画から

引)の森義之代表取締役が「鹿兒島の地から和牛の魅力・可能性を全世界へ発信し、和牛に人生をかけた全出品者と愛する牛たちとともに大会期間中、輝き続けることを誓います」と出品者代表宣誓を行いました。

また、鹿屋農業高校畜産科1年の森元陽哉さんが未来の担い手メッセージを披露。「残念ながら鹿屋農高は県代表牛に選ばれませんでしたでしたが、仲間と一緒に牛と過ごした日々は一生の宝物。多くの人と出会い、多くのことを学び、多くの技術を身に付けることができたのは、私にとって貴重な財産となりました」と全共に向けた取り組みや畜産に対する想いを語りました。



※画像は全国和牛登録協会配信動画から

多くの来場者で会場がにぎわう  
種牛の部審査会場である霧島市には、畜産関係者だけでなく一般来場者も楽しめるように、全国各地のブランド牛の試食や展示などのブースを設置。5日間にわたり多くの人たちににぎわいました。



### 鹿兒島県勢大奮闘 和牛の頂点へ

3日間にわたる審査の結果、全9区分中6区を鹿兒島県が制覇。鹿屋市では、3区分で優等賞1席(農林水産大臣賞)を獲得するなど、出品牛全てが優等賞に入賞。結果発表では県代表牛の出品番号が呼ばれるたびに、鹿兒島県勢から万歳が沸き起こるなどの熱狂ぶりを見せました。

地元農家の皆さんや関係者が5年前の宮城大会から、もしくはそれ以前からの取り組みが功を奏した結果であり、鹿兒島県のみならず、市内和牛のレベルの高さを全国に知らしめる結果となりました。

